

第7回 台東区学校教育情報化推進検討委員会

開催日	令和4年1月19日（水）10：00～11：10
場所	Zoomによるオンライン開催
出席委員	有村委員、油木委員、宇佐見委員、田中委員、瀬川委員、梶委員、越智委員、川田委員、落合委員、佐々木委員、瀧田委員、工藤委員
欠席委員	関井委員
配布資料	資料1 台東区学校教育情報化推進計画 パブリックコメント実施結果 資料2 同・最終案 資料2別紙1 第6回検討委員会からの修正点 資料3 検討スケジュール（予定）

■議事概要

1. 開会

委員長挨拶

2. 事務局説明

(1) パブリックコメント実施結果の概要について

- ・資料1のとおり、年末年始にかけ、保護者の方、学校に関係の深い事業者の方々など、10名の方から15件のご意見をいただいた。
- ・パブリックコメントの結果を直接的に最終案に反映した部分はない。

(2) 台東区学校教育情報化推進計画 最終案について

資料2別紙1について

- ・前回の委員会からの修正点を示した。

追記箇所について

- ・資料2 22ページ 第二部 整備計画の1番最後に「第3章 計画の推進に向けて」という章を追記したい。
- ・毎年度の推進目標について、どのように進行管理をしていくのか、改めて記載をするもの。これまで教育委員会でも示した「学びのキャンパス台東アクションプラン」や、区の情報化推進計画にも同様の項がある。

3. 議事

○各委員・委員長からの意見

(1) パブリックコメント実施結果の概要について

【宇佐見委員】

- ・端末や機器の不具合に関するコメントがあった。ICT機器の使用には不具合がつきもので、こういうことは今後も想定されると思う。現状では、機器の修理に数週間か1カ月かかり、使えない時期が発生してしまう。具体的に、バックアップ用の機器を常に置いておき、使えないときは代替機を使用する等の対応を考えていかないといけない。予算との絡みもあると思うが、そういった体制づくりも必要になると思う。今後の方向性はどうなるのか。

【佐々木委員】

- ・ハードの故障は多く、修理に時間がかかっている。関係事業者との連携を強化しながら、早急に対応している状況である。ただ、故障の台数も多い。もともと予備機はあるが、さらに増台するため、調達作業を進めている。

【宇佐見委員】

- ・そのように対応をしていただくことにより、家庭での安心感も違う。件数が増えて大変かと思うが、今後もよろしく願いたい。

【田中委員】

- ・学校でも端末不具合が起こっており、何とか担任の先生方が工夫して使いまわしている。ただ、今後端末を全員持ち帰り、先生方も自宅からリモートで授業をするということになれば、端末がないと成り立たない。
- ・代替機を増やすというお言葉が聞いて嬉しかったが、今後の契約は、端末の台数ということではなく、「デバイス・アズ・ア・サービス」というか、故障したらすぐ端末を交換して使っていけるような、そういった契約が必要かもしれないと個人的には思う。

【瀬川委員】

- ・本校でも同様に、機器のトラブルは日々起きているのが現状であり、何とかやりくりしているという状況。端末の持ち帰りをしたが、家庭でWi-Fiがうまく繋がらないことがあった。これは機器の状態だけではなく、家庭の状況もあるが、クラスで1人2人はできない子がいるというのが現状である。

【田中委員】

- ・パブリックコメントに対する回答案について、3点意見がある。
- ・1点目。項番1。「平時より積極的にオンラインやテレワークの活動をしてください」との意見にも関わらず、「臨時的にテレワークを可能としています」という答えは、まさに「臨時的にしかやっていない」ということになる。これは答えとしてはどうなのかなと思う。
- ・2点目。項番6。例えば、計画の中にコラム的に「こういう事例を行っている学校がありますよ」と入れてみてはどうか。
- ・3点目。項番11。登下校するとき荷物が重いというのは、数年前からずっと言われ続け、そこにタブレットが加わっている。本校では置き勉をどん

どんしましようという考え。持って帰っても使わない教科書やノートを持って帰っても、意味がない。「今日は家庭学習でこれをやるので、これを持って帰ろう」と、特に高学年では本人が取捨選択する形になってきている。また、電気代については、過去に問題になった。「学校で使う学習の道具をなぜ家で充電しなければいけないんだ」というご家庭が、ごくわずかだがあったというのが事実。これは各家庭でも使っていくようになれば、収まっていくと思うが。

ネットワークの整備について、先日、保護者会をリアルでもいいし、オンラインでもよいというある意味ハイブリッドな形で行ったが、その時にオンラインの方が、声がよく聞き取れなかったということがあった。本校としても、会議用のマイク、高性能なものの整備が必要と考えている。

【工藤委員】

- ・パブリックコメントに対する区の考え方については、内容を検討して、適切なものに変更していきたい。
- ・特に持ち帰りについては、持ち帰るものを厳選していくことはできると思う。思い切って提言をしていいのでは。教育委員会として考え方を各学校に提案していきたいと思う。

【有村委員長】

- ・パブリックコメントに対する返答をもう少し丁寧にしてもよいかもしれない。例えば項番6は、田中委員のご指摘のとおり、もう少し「こんなことを考えています」というような例を挙げると、ご意見を言った方への丁寧な回答になると思う。そういったことを心がけ、可能な範囲で区の考え方を訂正できるとありがたい。

【油木委員】

- ・基本、皆様おっしゃっている通り。この内容が本当だとすれば見過ごせない。例えば項番7。そもそもICT計画云々の前に、学校運営計画として本当にこののであれば、まずいのではと思う。項番6でいうと、他区より遅れているというだけではなく、学校間でも差が大きいというのは、PTAと教育委員会との懇談会の中でも指摘があった。そういったことを、この推進計画の中で具体的にどう示していくのか、学校現場や保護者により分かりやすい記載になるといいかと思う。

【有村委員長】

- ・このスピード感という問題については、今情報化がどんどん進んでおり、さらにコロナの状況で一気に前倒しになった。教育委員会の対応も大変だったと思う。だがそれ以上に使う子供たちの場面になってみると、機器に不具合が起きれば瞬時にパニック状態になる。そういったことへの対応も大切になってくると理解した。

(2) 台東区学校教育情報化推進計画 最終案について

【油木委員】

- ・前回からの改善というところでは、特に大きく変える必要はないかと思うが、この計画が教育現場に降りてきたときに、子供たちへの教育に具体的にどのように関わっていくのか、どう変化していくのか、見えてくるものがあるとよい。ICT支援員だけではなく、ICTの専門家が積極的に入っていくという形が、令和6年、7年に向けて、あってもよいのかなと思う。

【有村委員長】

- ・子供自身の学びが変わっていく姿勢がとても大事。専門家が、各学校に1人ずついけばよいのだが。現場の先生に頼っているというのが現状かと思う。

【宇佐見委員】

- ・P8. スコア等について、具体的な数値を挙げたのは分かりやすい。記載がなかったものが追加されたのはいいことだと思う。ただその中で、「スコアを出すための小テスト（eラーニングによる）」とある。これは、統一したものを使うのか、学校別なのか。同じ数値と想定するのであれば都や国の小テストをやっていくのか。いつから実施するのか。

事務局より回答⇒

- ・eラーニングによる小テストは、台東区独自で開発を進めているシステムを用いて、各児童生徒に取り組んでもらう予定である。
- ・実施時期は、令和3年度の状況を基準として進めるため、来月（令和4年2月）を予定している。
- ・全ての学校で同じ内容を令和7年度まで続けていく。

【宇佐見委員】

- ・P19. (1) ①推進目標の見直しについて。50%の目標を令和7年度までに80%にするという変更だが、見直しの経緯や根拠をお聞きしたい。

【工藤委員】

- ・「ICT機器の活用」には、タブレット端末だけではなく、電子黒板でデジタル教科書を提示するといった使用も含まれている。来年度から学習者用のデジタル教科書も入ってくるため、使う可能性は高くなるだろうということで、高めに設定したという背景がある。

【宇佐見委員】

- ・各学校で80%に向けた、学校ごとの体制づくり・対応を進めていくということか。区の方でも主導で進めるのか。

【工藤委員】

- ・基本的には機器を使っていく状況になると思うので、教育委員会が働きかけるといよりは、必然的に高まっていくと考えている。うまく活用できない学校については、教育委員会が支援することになる。

【宇佐見委員】

- ・全体から1点。今回追加していただいた「はじめに」の3ブロック目の一番上。「学校は、子供たちが学び合う場であるとともに、心身の安全と健康が保たれる大切な場です。」というところが、非常によい意味で心に引っかかった。今回の計画では情報化というところを話し合ったが、この文言を基本として、「心身の安全と健康が保たれる場」を、学校・地域・行政・保護者で作っていく。その中心に、情報化推進計画があるというのを、私も改めて認識させていただいた。この追加は良かったと思う。

【田中委員】

- ・まず軽微な修正が必要な部分
P20. 2(1)「公表しております。」⇒「公表しています。」に変更
- ・検討してほしい点が2点。
- ・資料P31.「情報活用能力の考え方」で、「3観点8要素」というのがあり、「IE-Schoolの実践研究により3つの柱も含む」ということが書いてある。P2.を見ると、欄外に「3観点8要素」のことが書いてあり、P8.の第3章のところも、「3観点8要素」が書いてあるが、P31.の内容の記述と、P2、P8の脚注の記述が、読む人にとってはどういうことだろう、と疑問に思うかもしれない。
- ・P2. 1(1)の1段落目「新たな価値を創造する社会を生きる」の記述の意味が分かりにくい。「新たな価値を創造することが求められる社会」なのか、記述を見直してほしい。
- ・最終版を見て、評価したいなと思ったことが2点。
- ・P8. 成果指標のところや、P11.「家庭学習等」といった変更は、かなり現実的なところで、地に足がついた計画になった。とても良かったと思う。特に「家庭学習等」の「等」というところ。例えば、ある事業者は、GIGAスクールアカウントは学習用のため、学習以外では使ってはいけないというところもあるが、ある事業者はどんどん使ってください、というところもある。
「家庭学習」と書くと、学習しない時には使わないのか、となるが、端末を日常的に使うとなれば、連絡帳代わりになるなど日常化されていくので、こういった記述はとても評価できるかなと思う。
- ・将来的なことになるが、P9. 1(2)1段落目。「校務系ネットワーク環境は職員室のみでの運用とするため、有線接続としています。」とある。私が過去に着任した自治体で、先生がモバイル端末を使って教室で出席を取ると、それがそのまま校務システムに入り、通知表や要録に反映されるという世界を実現したい、という計画を立てた。職員室のみという運用ではない。先生方の自宅や職員室でも、子供たちが帰った後の教室でも、いつでもどこでも校務が処理できるようになればよい。いずれ今の取り組みが進み、

いつでもどこでも仕事ができるようになればいいなど。そういうふうに踏み出している自治体もあるので、今後はこういう縛りが、ゆるんでいくといいなというところ。

- ・今回、回数が成果指標として出ていて、私はそれでいいと思うが、将来的にICTを使った授業が学校に溶け込んでくると、回数を計算するより、使う・使わないは子供たちが決めることになる。例えば、我々がメモをするときに鉛筆を使えとかノートを使えとか、iPadを使っていいですかと確認しないように、子供たちが決めるという形になれば、回数の指標は意味をなさなくなる。いずれはそういう世界が学校に来るといいなと思う。

【瀬川委員】

- ・P13. 各基本方針の推進目標については、以前の中学校長会では私も含めて意見が出たところだが、少し改善されていてよい。あの時の状況とは違って、英語のデジタル教科書が令和4年から入ることになったので、持ち帰ることについては校長会でも意見が変わると思う。その点はよかった。
- ・パブリックコメントにあった、道徳的な価値観や、家庭に持ち帰った際の不安感は、中学校の先生では割と多い。そこについてはどう捉えているのか。今は触れられていないが、引き続き検討していかないといけないと思う。
- ・コロナ関係で、デジタル化やGIGAスクール構想というのが一気に前のめりで突っ込んできたと思う。先生方は厳しい対応をしながらも、毎日非常によく頑張っていると思う。そこは評価している。現場の先生方を慌てさせたくない。できることをできる範囲でじっくりやっていく。色々な機器を使うことは大事だが、先生も子供にも、心の面のケアが必要だと思う。

【宇佐見委員】

- ・P2. (2)「何を学ぶか」に加えて「何ができるようになるか」、「どのように学ぶか」、「情報活用能力」が大切になっている。改めてそう思う。
- ・保護者や、我々策定委員も含めて、実際に自分たちがICT教育を受けた経験がない。これからの先の話になるが、子供たちの意見、特に中学生あたりになると個々の意見があるが、そういった意見を家庭から先生方や教育委員会、その他にフィードバックできるような場を作ることが、先々の教育につながるのではないか。

【有村委員長】

- ・先ほど小中学校の先生方も指摘されましたが、ICTというものから何を学ぶか。ICTはもう道具になる。子供たちが鉛筆やノートと同じように使う時代が来る。そういうことをベースにした最終案にできるとよい。新しい価値観というか、学び方が変わってくる。
- ・P5. 図表の推移が平成21年から令和元年になっているが、例えば令和2年度、3度あたりのデータがあるとありがたい。
- ・P13. 修正点を加え、見やすくはなっているが、いかにも「推進・充実」

という言葉が並びすぎて辛い気もする。パブリックコメントの項番6にもあったが、例えば「小学校ではこんなことをする、中学校ではこんなことをする」と例示されるとよいかという気がする。「推進・充実」というのはよいのだが。何をどの程度「推進・充実」するのか。行政当局の担当課長には、こうしますと言いつらい部分もあるかもしれないが。例えばこんな運用がありますよと、例示していただけるといいかなと思う。例示の際のヒントとして、基本方針では「環境整備・活用推進・体制整備」と3つ示している。この視点から考えたときに、こういう「推進・充実」がありますよと。中身もうまく整理していただいて、考えていただければうれしい。

- ・ P20. (1) 文部科学省の調査の活用について、平成25年度とあるが、それ以降にやっているような気がする。最新のデータがあればよい。平成25年度は少し古すぎないか。

【工藤委員】

- ・ 調査については、文部科学省が実施しているが、最新の結果が公表されていない。令和3年度に実施しているはずであるが、細かいところが出てきていないというのが現状である。
- ・ P13. 推進計画の「充実」の記載だが、事務局としては、具体例を考えているので、出せるところは提示をしていきたい。例えば、基本方針1のところでは、「学校における安全安心なICT環境の整備」ということで、デジタル教科書の導入によるネットワーク環境の充実などがある。
- ・ 情報活用能力の3要素については、新学習指導要領に変わって再整備がされているかと思う。検討させていただきたい。
- ・ 様々ご指摘をいただいたところについては、今回の意見を踏まえ、修正できるところは修正していきたい。

【有村委員長】

- ・ 事務局で、本日の協議内容を踏まえ、最終的な計画策定に向け、よろしくお願ひしたい。

(3) 今後のスケジュールについて

資料3について、事務局より説明。

- ・ この検討委員会による審議は本日で終了。

4. 閉会